

ちょうせんせんそう かいけん そ し けっせん
朝鮮戦争・改憲阻止の決戦へ

きたはらこうじ せいきよ いた
北原鉦治さんの逝去を悼む

のうち ししゅ くこうぜったいはんたい じつりょくとうそうつらぬ さんりづかとうそう いだい しどうしゃ
農地死守・空港絶対反対・実力闘争貫いた三里塚闘争の偉大な指導者

かくめいてききょうさんしゅ ぎ しゃどうめい
革命的 共産主義者同盟

きたはらこうじ りやくれき
北原鉦治さん 略歴

ねんち ばけん さくらしう かいぐん せんそう たいけん せん ごさんりづか うつ ごふくてん いとな
1922 年千葉県佐倉市生まれ。海軍で戦争を体験。戦後三里塚に移り呉服店を営
む。66 年の新東京国際空港の閣議決定に対し三里塚芝山連合空港反対同盟の事
務局長に就任し、終生反対運動の先頭に立つ。71 年の第 1 次・第 2 次強制
代執行、7 月仮処分などに対し実力で闘う。動労千葉のジェット燃料貨車輸
送阻止闘争を支援し労農連帯を固める。83 年 3・8 分裂攻撃に対し「農地死守」
原則を堅持し脱落派と対決。2000 年代から今日に至る天神峰・市東孝雄さんの農
地を奪う攻撃と闘う。毎年秋の民主労総ソウル本部の三里塚訪問を歓迎し、国
際連帯の発展に寄与。15 年まで集会発言に立ち続ける。享年 95。著書に『大地
の乱 成田闘争』96 年刊。

せんそうたいけん たたか げんでん
戦争体験を闘いの原点に

さんりづかしばやまれんごうくこうこうはんたいどうめい じ むきょくちょう きたはらこうじ がつこのか な
三里塚芝山連合空港反対同盟事務局長の北原鉦治さんが 8 月 9 日に亡くな
った。享年 95。

かくめいてききょうさんしゅ ぎ しゃどうめい こころ あいと う い あらわ きたはら れいぜん さんり
革命的 共産主義者同盟は心から哀悼の意を表し、北原さんの霊前に「三里
塚闘争完全勝利」の報告をするまで闘い抜くことを厳粛に誓う。

きたはら しやうがい さんりづかとうそう れきし ねん はんたいどうめい
北原さんの生涯は三里塚闘争の歴史そのものである。1966 年の反対同盟

けっせい いらい しゅうせい じ む きょくちょう じゅうせき にな はんせい き こ とうそう しどう
結成以来、終生事務局 長の 重責を担い、半世紀を超えて闘争を指導してきた。

こそん かいこん せん ごにゆうしよく たよう そんらく くうこうはんたいうんどう なか あ
古村、開墾、戦後入 植 という多様な村落を空港反対運動の中でまとめ上げてき
た。農民とともに常に実力 闘争の先頭で 闘い続けた。三里塚現地にさっそうと立
きたはら えがお たたか しょうり ちへい てんぼう あらわ
つ北原さんの笑顔は 闘いの 勝利の地平と展望を表 していた。

きたはら うしな つうこん きわ はんたいどうめい いま きたはら のこ
北原さんを失ったことは痛恨の極みである。だが反対同盟は今、北原さんの残
たたか じっせき きょうくん つ ちからづよ ぜんしん
した 闘いの実績と 教訓を継ぎ、力強く前進している。

きたはら ねん がいつか ごふくしょう じなん ちばけんさくらし う
北原さんは 1922年3月5日、呉服商の次男として千葉県佐倉市に生まれ
た。42年に19歳で海軍に入り、太平洋の各方面に赴いた。軍隊内での過酷な境 遇
う つづ せんとう ひさん ま あ ねん がつ はいせん よこすか むか
と打ち続く 戦闘の悲惨を目の当たりにし、45年8月の敗戦を横須賀で迎えた。こ
せんそうたいけん せんそうぜったいはんたい げんてん
の戦争体験が「戦争絶対反対」の原点となった。

ねん なりた しさんりづか うつ す ごふくてん いとな なか ねん がつよか さとうないかく
47年に成田市三里塚に移り住み呉服店を営む中、66年7月4日、佐藤内閣が
しんとうきょうこくさいくうこうせつち さんりづか かくぎけつてい ほう とつじよ ただ じもと
新東京国際空港設置を三里塚に閣議決定との報が突如もたらされた。直ちに地元
の農民・住民は三里塚芝山連合空港反対同盟を結成し、戸村一作委員長、北原
じ む きょくちょう たいせい かくりつ
事務局 長の体制を確立した。

たたか こっか けんりよく じつりよくとうそう はってん なか ねん はねだ とうそう
闘いが国家権力との実力 闘争へと発展していく中で、67年10・8羽田闘争
ち なか たたか ぜんがくれん さんりづか か はんたいどうめい かん こ こえ むか
を血を流して 闘った全学連が三里塚に駆けつけると、反対同盟は歓呼の声で迎
えた。一方で、裏切りと敵対を深める日本共産党と絶縁した。全学連、反戦派
ろうどうしゃ かくきょうどう きょうとうかんけい たたか ほうこう き
労働者、革共同との 共闘関係が 闘いの方向を決めた。

きたはら はねだくうこう しさつ べいぐん き げんじつ
北原さんは羽田空港を視察し、米軍のチャーター機があふれる現実をつぶさに
み ぐん じくうこうはんたい はんたいどうめい ていちゃく
見て、「軍事空港反対」のスローガンを反対同盟に定着させた。

ねん こっか ぼりよく だ きょうせいしゅうようこうげき さんりづかのうみん おそ
71年、国家暴力をむき出しにした強制収用攻撃が三里塚農民に襲いかかっ
た。第1次、第2次強制代執行に対し、北原さんは反対同盟を指揮し実力 攻防
せんとう た がつかりしょぶん そ しとうそう みずか そっせん ちかごう はい
の先頭に立った。7月仮処分阻止闘争では自ら率先して地下壕（ちかごう）に入

り、命を賭して闘った。9月、初の個人宅への執行となる大木よねさんへの
 収用攻撃に立ち向かい、機動隊の暴行を徹底的に弾劾した。

一方で北原さんは、戸村さんを継いで75年に成田市議会議員に初当選し、以後
 4期16年を務めた。

動労千葉と労農連帯の絆

動労千葉とは当初から熱い連帯関係を結び、動労ジェット闘争支援共闘会議
 が77年に発足すると、北原さんは代表世話人に就いた。「三里塚との絶縁」を迫
 る動労本部カクマルに心底怒り、ジェット燃料貨車輸送阻止闘争に立つ動労千葉
 に全幅の信頼を寄せた。ハンドルを武器に首をかけて闘う労働者のストライキ
 を反対同盟は全力で支援した。

1978年3月の開港阻止決戦では、北原さんは学生たちとともに横堀要塞に
 籠城（ろうじょう）し、大鉄球による破壊攻撃にひるまず闘って逮捕され、
 2カ月間勾留された。

同年5月、成田空港はA滑走路1本で暫定開港。翌年11月の戸村委員長長の逝去
 に伴い、北原さんは全責任を担って立ち上がった。

開港以後、国家権力による反対同盟切り崩し攻撃が陰湿かつ執拗（しつよう）
 に激化した。81年に反対同盟一部幹部の政府高官との秘密交渉が発覚し、反対
 同盟は彼らの役職を解任した。82～84年には成田用水攻撃と闘った。

83年、権力の反対同盟つぶし攻撃は、同盟内での「一坪再共有化運動」「北
 原事務局長解任」の策動となって激化した。3月8日、「熱田派」＝脱落派が
 反対同盟から分裂した。北原さんを先頭に反対同盟は「農地死守・実力闘争」

の基本原則を守り、3・8 分裂攻撃にうちかち、東峰の萩原進さんが事務局次長に就任した。さらに脱落派と呼応した反革命カクマルの敵対を粉碎した。

86 年に 2 期工事が着工され、強制収用攻撃の重圧のもとで敷地内の「小川グループ」が脱落した時も、北原事務局長は天神峰の市東東市さんと固く結び、闘いの大義を守り抜いた。

90 年 1 月、成田治安法による天神峰現地闘争本部のだまし討ち的な強制封鎖攻撃に対し、北原さんを先頭に反対同盟は雪の降る中で実力対決を貫いた。この間脱落派は、「公開シンポジウム」「円卓会議」という政府との話し合いに深々とめり込んでいた。

この一連の闘いに加えて千葉県収用委員会が全員辞任し解体する中、土地収用法に基づく事業認定が失効し、2 期工事強制収用攻撃は完全に粉碎された。

99 年に市東孝雄さんが帰郷し、天神峰で農業を継ぎ反対同盟の一員となった。その後襲いかかる市東さんへの国と N A A (成田空港会社) の卑劣な農地強奪攻撃に対して、北原さんは全身で怒り闘ってきた。

11 年 5 月 20 日、現闘本部裁判控訴審で仮執行宣言付きの不当判決が下された。直ちに東京高裁での執行差し止めの行動に立った反対同盟と支援者 50 人を、警視庁は不当逮捕した。89 歳の北原さんは 4 回目の逮捕と闘い、程なく奪還された。

「若者の未来のため闘う」

北原さんは全国を飛び回り闘いのアピールを発し続けた。特に「農民は農地を武器に、労働者は鉄路を武器に」と一貫して労農連帯と実力闘争を唱え実践

し、^{くうこう}空港の^{かんせい}完成を^{はば}阻んできた。この^い生きた^{きょうくん}教訓が^{たたか}闘う^{かんこくろうどうしゃ}韓国労働者の^{たましい}魂をとらえた。

2006年を最初に、^{ねん}動労^{さいしょ}千葉の^{どうろう}案内で^{ちば}民主^{あんない}労総^{みんしゅろうそう}ソウル^{ちいきほんぶ}地域本部の^{いちだん}一団が^{まいとし}毎年^{あき}秋に^{さんりづかげんち}三里塚^{おとず}現地を訪れ、^{ねん}10年を超えて^{はんたいどうめい}反対同盟との^{こうりゅう}交流を^{つづ}続けている。^{きたはら}北原さんは^{まいかいかんこく}毎回^{どうし}韓国の^{らいほう}同志たちの^{こころ}来訪を^{かんげい}心から^{にど}歓迎し、「^{せんそう}二度と^く戦争を^{かえ}繰り返してはならない」と^{きょうちょう}強調し、^{さん}参加者の^{かしゃ}胸を^{むね}熱く^{あつ}した。

^{きたはら}北原^じ事務局^む局長は「^{きよくちよう}来るものを^く拒まず」と^{こぼ}三里塚に^{さんりづか}連帯する^{れんたい}人びとを^{ひと}幅広く^{はばひろ}受け入れながら、^い反過^{はん}激派^{かげき}宣伝や^は実力^は闘争^{せん}路線への^{じつりょくどうそう}敵対には^{てきたい}屈しな^{くつ}なかった。世に^よ言う「^い北原派」は、^{きたはら}金と^{かね}暴力に^{ぼうりょく}屈せず^{くつ}国策と^{こくさく}闘う^{たたか}強硬派の^{きょうこう}代名詞として^{だimeiし}浸透した。

そして^{きたはら}北原^じ事務局^む局長が^{かくきょうどう}革共同に^{かぎ}限らない^{しんらい}信頼を^よ寄せてくれたことを、^{われ}われは^{ぜったい}絶対に^{わす}忘れない。^{かくきょうどうせい}革共同政治^{じしゅうかい}集会に^か欠かさず^{しゅつせき}出席し、「^{さんりづか}三里塚の^{だい}大地に^た立て」と^{まいかいさん}毎回^{かしゃ}参加者を^{こぶ}鼓舞した。

07年、^{ねん}徳島^{とくしまけい}刑務所^{むしよ}で^{ほし}星野^の文昭^{ふみあき}同志に^{どうし}面会し「^{めんかい}再び^{ふたたび}三里塚で^{さんりづか}会おう」と^あ激励し、^{げきらい}獄壁を^{ごくへき}こえて^{れんたい}連帯した。

また、^{わか}若い^{がくせい}学生活動家を^かこよなく^{あい}愛し、^{ぜんがくれんたいかい}全学連大会には^{からだ}体の^{ゆる}許す^{かぎ}限り^{らいひん}来賓として^{さんか}参加し、「^{わかもの}若者の^{みらい}未来のために^{さんりづか}三里塚は^{たたか}闘う」と^{げき}檄（げき）を^と飛ばした。

まさに^{きたはら}北原さんは、^か過去の^{つうく}痛苦な^{せんそうたいけん}戦争体験を^ふ踏まえながら、^{つね}常に^{げんざい}現在の^{さいせんとう}最先頭で^{ふんとう}奮闘していたのだ。

^{はんたいどうめい}反対同盟の^{しゅうへん}周辺^{ちいき}地域一斉^{いっせい}行動では^{かなら}必ず^{つじだ}辻立ち^{えんぜつ}演説を^{おこな}行って、^{だい}第3^{かつそうろ}滑走路^{そし}阻止を^{うった}訴えてきた。

15年10・11^{ねん}全国^{ぜんこく}集会で^{きたはら}北原さんは^{しゅさいしゃ}主催者^たあいさつに^{いのち}立ち、「^{うば}命を^{こうげき}奪う^{いのち}攻撃に^かは^{たたか}命を^{さんりづか}懸けて^{はいこう}闘う。三里塚^お空港を^こ廃港に^{ちからづよ}追い込もう」と^{うった}力強く^{うった}訴えた。これ

さいご しゅうかいはつげん
が最後の集会発言となった。

きたはら せんとう き ひら さん りづかとうそう ちへい ちょうせんはんとう せんそう
北原さんが先頭で切り開いた三里塚闘争の地平は、朝鮮半島をめぐる戦争の
き き せつぱく こんにち けっていてき じゅうよう
危機が切迫する今日、決定的に重要になった。

しとう のうち まも
市東さんの農地を守れ！

だい かつそうろ そし きたはら いし つ はんたいどうめい けつめい いっそうぶ かた
第3滑走路阻止！ 北原さんの遺志を継ぎ、反対同盟との血盟を一層打ち固め、
のうち ししゅ かいけん そし せんそうぜつたいはんたい たたか いま おお はってん
農地死守、改憲阻止・戦争絶対反対の闘いを今こそ大きく発展させよう。